

第4回長沼町学校づくり検討委員会会議 会議録

I. 日 時	令和6年1月26日（金） 18:00~20:00
II. 場 所	長沼町役場 3階 第1・2会議室
III. 参集者	委 員 13名 事務局 7名
IV. 議事内容	
1. 開 会	高羅委員長
2. 議 題	高羅委員長が議長となり議事を進行。 （1）第2回住民説明会での意見結果について 事務局より説明。 （2）第2回住民説明会を踏まえた基本設計の再修正案について 事務局の概要説明の後に㈱日建設計 より説明。 （3）新校舎の外観等について 事務局の概要説明の後に㈱日建設計 より説明。 （4）次回開催日について 事務局より次回開催日については、3月上旬を予定しており、正式な通知は調整次第、追って連絡する旨説明。
3. その他	議会特別委員会について 事務局より第3回検討委員会会議で配置計画（A~D 案）について再度、検討しD案が最適であると判断した旨、特別委員会で報告したことを説明。
4. 閉 会	高羅委員長

以上

■各議題にかかる質疑応答一覧

○議題（１）第２回住民説明会での意見結果について

検討委員：町民会館のことについては町長部局が説明していくということか。

事務局：町民会館のことについては、教育委員会ではご説明したりすることができないので、町長部局で行われるべきものと考えている。

検討委員：カリキュラムのことについて、ソフト面について考えてほしいとあるが、それについて何かお話されているのか。

事務局：教育長のところで答弁させていただいたものである。カリキュラムの時間等については今後、令和６年度に準備委員会を立ち上げて検討していかなければならない。より良いものに向けて十分考えていくとご答弁したものである。

○議題（２）基本設計の修正案について

【駐車場について】

検討委員：低学年グラウンドに１００台停めても地盤とかは大丈夫なのか。臨時で使用した後のグラウンドは使えるのか。

日建設計：路盤をしっかりと整備することから問題はありません。

委員長：雨のときも大丈夫なのか

日建設計：大丈夫である。

検討委員：学校のヒアリングのときに駐車台数は具体的に何台ぐらい欲しいと言われているのか。

事務局：参観日に１学年３クラス９０名程度の車両が敷地内で確保できるとありがたいと聞いている。

日建設計：参観日などわれわれとしてはイベント時に含まれると理解のうえで設計している。

検討委員：現状で昼間の参観日とすると通常、スポーツセンターの駐車場は使われていない印象があるのですが、敷地内で収まるのが学校としては必要だという理解でよいか。

事務局：そうである。

検討委員：検討案の前庭はどのくらい変わる予定なのか。

日建設計：前庭の面積でいうと４分の１くらい変わる。恐らく詰めて入れ替える新しい庭になると思われる。具体的なイメージはこれからである。

検討委員：けっこう桜があるので変えるならかなり雰囲気が変わるのか。

日建設計：かなり変わることになると思う。

委員長：小学生は結構遊具を使うことになるのだが、遊具ゾーンはどうなるのか。

日建設計：低学年グラウンドの南側に配置しており、どちらの案でも遊具ゾーンに影響はない。

検討委員：前庭を置く教育的な狙いとはなにか。

日建設計：できるだけ緑を残したいと考えている。前庭を変えらるとなると事業費コストがかかる。多少なりとも思い出があるならば、町の記憶を残すという意味もあると考えている。

検討委員：子どもたちの勉強で使うような樹木を置くという意図はないということか。

日建設計：全体の外構における植栽を計画していく必要があり、その中で考えていきたい。授業でどのように活用されているのか現状をヒアリングした中で活用を検討していく。

※委員長：説明会案と検討案の比較ですが、委員の皆様でご意見等あればお願いします。

検討委員：私の意見としては、3クラスが予定されているのは1学年、100台の車が停まるかもしれないが、中央地区では徒歩圏内の方もいる。通常時60台、低学年グラウンドも活用して160台も利用できるのであれば、私としては60台がいいのではないかと。私も卒業生で正直、前庭は遊んだことはないが、前庭でメモリアルとして植樹するなどこの前庭が有効活用できるようになってほしい。検討案にある低学年用グラウンドは車に面していて危険だと考える。一長一短があり、予算的なこともあると思うが、正直、低学年グラウンドを使用してもオーバーフローすることは考えにくいと思う。周辺のスポーツセンターなどの利用もできれば問題ないのではないかと。

検討委員：前庭の思い入れはないが、中学校の中から観る桜は素晴らしいので無くなってしまうと残念だと思う。ただ、駐車場は多い方がいい。参加日だけでなく学芸会もある。親目線では駐車場がほしいし、前庭も残してほしい。

日建設計：おっしゃることはわかる。イベント時の対応で頻度を考えると発表会のこともある。このように拡張して敷地内に収めるということを考える。私も前庭はいい場所だなと思った。大きい面積を設計しているときにちょっとでも残せるものがあれば、歴史を継続していくことで、まちの財産になると思っている。

委員長：事務局としては、どちらがいいか議論してほしいということか。

事務局：そうである。

検討委員：小学校ですが、生徒数が多い学年だと90名あり、現在参観日は低学年・中学年・高学年と2学年ごとに実施しているため、約150名程度必要になってくる。説明会案と検討案と比較すると、検討案がいいと思った。低学年グラウンドについてですが、50mを走り終わった後のエスケープゾーンが必要であって、駐車場の拡張と真逆になりますが、もう少し低学年グラウンドを拡げてほしい。

検討委員：検討案で5000万円の事業費がかかると伺ったが、事業費の増加は町として大丈夫なのか。

事務局：まず金額の議論も出るが、ポイントとしては通常の60台だと少ないだろうと感じると思う。イベント時は低学年グラウンドを活用して合計160台で足りるかどうかが議論の一つである。先ほど委員さんからもあったが、150台ぐらひは必要であるとのことであった。事務局側でどちらが良いかということではないが、金額的なこと、それから160台で足りるのか、あるいは160台プラス、スポーツセンターなどの駐車場でご満足いただけるかどうか。前庭の有効活用についてのご意見もいただいております、駐車場は広い方がいいと思うが、それぞれメリット・デメリット含めて委員の皆様のご意見を伺いたい。

検討委員：私も検討案がいい。遊具は前庭に置けるのか。

日建設計：遊具を置くことに関しては可能である。それによって前庭の活用に繋がる。

検討委員：前庭は保育園の散歩コースにもなっているようなので、可能であればぜひお願いしたい。

検討委員：駐車場の話をしていると車の往来が気になって来て、検討委員会の最初の方で話していた横断歩道の設置や町道の廃止についてはどうなったのか。

事務局：横断歩道の設置については公安との協議が必要となる。スポーツセンターの南側の道路については、車が通れる道路を残すかどうか今後決めていく必要があると考えている。今後この建物の建つ位置が決まる中で、町の道路担当部署と今後どのような形で車道として残すのか、用途を廃止して道路として使わない形とするかは、今後検討させていただく。

検討委員：小学生の自転車の通学も出てくると、今、中学生が暗黙のルールで守られているが、更に低学年の子どもたちが通うとなると、もっと危ない目に合う可能性が出てくるのであれば、建物が決まる段階では公安の方に話をしないといけないではないかと思う。ケガ人を出してから要請するのでは遅いと思われる道路がこの地区には結構ある。駐車場や遊具の話が出てきているが、道路の話が一向に出てこないのです。そろそろそういう話も出てきてもいいのではないかと思う。

事務局 今後検討していく。

検討委員：日中においてバスプールでスクールバスは常に停まっているのか。

事務局：現在はバスプールがありませんので、交通センターやスクールバスの駐車場があるので、そこに戻っている。新校舎においても登下校の時間以外についてはバスプールにバスは停留していない状況である。

検討委員：私は通常時60台を推しているのですが、バスプールが職員だけでなく父母の車が止められるのではないか思った。また職員の駐車場を詰めてもらえれば、父母の駐車場としても利用できるのではないかと思った。

検討委員：常に使っている状況にもよるが110台も使わないのではないかと思う。前庭を潰して変更かけるとなるとその分お金がかかり、そのお金が子どもたちのために他に使えるのであれば、そちらに回した方がよい。現在中学校で行事がある時には、教職員はスポーツセンターに停めさせてもらっているが、例えば、スポーツセンターの昔のテニスコート敷地を舗装してはどうかと思う。学校祭でスポーツセンターの駐車場があふれて使えなくなったということはここ10年で起きてはない。それを考えると、時間設定などを上手く工夫し、周囲の駐車場施設を活用させてもらえるのであれば、説明会案でクリアできるのではないかと思う。

検討委員：違った視点で意見を言うが、高校では送迎のときに学校の中に車が入らないよう保護者に伝えている。道路に停めて送迎をすることになる。中学校のことを考えると道路のところに送迎されると迷惑になると思う。車が敷地内に入るとなると回るようになければならず、事故が起こる可能性もあるので検討案だと、ぐるっと回ることができるのではないかと思う。

日建設計：一旦停めてきちんと歩道に出て、歩いてもらうルールづけが必要だと思っている。これだけの台数が止められる場所であるので、説明会でも検討案でも共通の運用が必要であると考えている。

委員長：説明会案の方が、安全性が高いとの説明であったが具体的にはあるか。

日建設計：安全面において、説明会案では車を停めて、両側の歩道スペースから歩いて移動ができるが、検討案では真ん中の島に停めた場合、車道を横断しなければならないので、安全面においては説明会案の方が高いと考えている。

委員長：イベント時は周りを使える。学校の前庭が有効に活用されていないとの意見もあった。将来にあたって有効活用できるよう前庭の整備も検討していただけるのか。

日建設計：前庭の位置づけは、今の中学校の前庭とは変わった位置づけとなり、まちの中の新たな公共の場として位置づけ直すことができるのではないかと考えている。

検討委員：教員の駐車場やバスプールも使うとして、除雪の範囲が広がって行って、それを管理する人や時間を確保する必要がある。恐らく今の中学校の倍以上だと思う。そこも含めて課題がクリアになるのか考えていく必要がある。

事務局：現状、小学校は役場の駐車場を利用している。中学校については委託をかけて町内の業者で雪を寄せている。おっしゃるとおり冬季の除雪については押し付けて排雪している。小学校は役場の駐車場を利用しているので、その分を含めると2倍の経費がかかることが見込まれる。110台とすると整備や管理面積が増え、白線引きにかかるコストやアスファルト舗装も永久に保つ訳ではないので、整備も必要になってくる。それらも含めて、当初はコストも含めて60台で考えていた。参考までに日建設計で設計したとうべつ学園と同等となっている。札幌市に比べれば多い駐車場となっている。

検討委員：ランニングコストの話が出るのであれば、今後の見通しを考えると駐車場を何で多くしたのだと言われると思う。これだけデメリットがあるのであればもっと検討しやすく議論できる。先々を考えるのであれば、安全面などを考慮しつつ、前庭の有効活用することも含めて説明会案を支持させていただきたい。

委員長：メリットやデメリットを含めて説明会案がいいではないかとの意見がありました。可能な範囲での修正や前庭の活用の要望も含めて説明会案でいかがか。

⇒全員了承

委員長：説明会案で進めていく。

【地域開放について】

検討委員：計画案としては可能であると理解しているが、運営する側としては、これだけ開放すると管理が大変なのではないかと懸念している。

事務局：住民説明会でもご意見をいただき、開かれた学校づくりということで、今回、赤色の部分が追加となった。セキュリティーについては開放の建具の話もありましたが、セキュリティーの在り方も含めて今後検討していく必要があると考えている。

副委員長：学校運営上の点でという話がありましたので課題はいくつかある。子どもたちの作品や工具を一齐に貸し出すことが授業に影響が出ることもあるかと思う。ただ、何かしらの工夫で町民の方が使えるようになる

るのであれば、極力地域の方に貸し出すことを検討しなければならないと思っている。音楽室においても吹奏楽の楽器を共用するのか、または触れられないようにきちんと管理するのか、そのような工夫も必要になってくる。住民説明会を聞いていると可能な範囲で貸し出すよう考えなければならないと思っている。

検討委員：住民説明会に参加された方々は町民会館を利用されている文化団体の方が多く、開放してほしいという気持ちはわかるが、子どもたちが授業している中で、一般利用によって人が入って来て、この仕切で集中力が落ちたりしないのかと思う。防音は大丈夫なのか。学校の授業の妨げにならないのかなと思う。開かれた学校は喜ばれると思うが、先進自治体では人口数がここよりも少ないので成立しているところもあると思う。

日建設計：状況を想定して対応は可能である。事例の写真のものは下がスカスカであるが、運用の仕方なども含めて仕切については考えていく。

検討委員：放課後子ども教室などで百人一首や茶道などを行っており畳がほしい。意見として伝えておく。

事務局：それについては検討していく。開放エリアは可能性として提示しているものであり、学校運用も含めて今後考えていく。

委員長：例えば、月曜日はこの場所だけを開放するなどいろいろな場所で仕切ができるのか。

日建設計：プログラムに応じて開けたり閉めたりすることが可能である。

委員長：備品の貸し出しなどの課題はあるが最大限開放していくことでよいか

⇒全員了承

【サブアリーナについて】

検討委員：りふれの三世代教室とサブアリーナは何が違うのか教えてほしい。

事務局：りふれの三世代交流室とのステージの比較であるが、りふれのステージは間口が8メートル、奥行きが4.8メートル、高さが2.5メートルになっており、ステージの段は30センチで天井高は2.7メートルになっている。三世代交流室の部屋の大きさですが、詳細な数字は今、持っていないのですが、町民会館の大集会室368㎡よりも小さい面積となっている。天井高は5.5から6.8メートルとなっており、りふれの天井がカーブしているので高さが異なるためこのような仕様になっている。

検討委員：あくまで主観ですが、大きさが変わらないのであれば、同じものを2つ持つ印象を持った。サブアリーナということで広く取れたということを見ると、例えばステージの要望については仮設ステージでもい

いのではないかと思った。

事務局：仮説ステージについて壁に収納するものや台を何台か組み合わせで設置することも検討はあったが、住民説明会などのご意見を踏まえて、町民会館の大集会室がなくなることに対して代替の機能として持ってほしいと言われたので、音響なども整備するために常設型のステージがいいのではないかという考えから、できる範囲で設計したものが今の再修正案となっている。

検討委員：すべての町民が要望しているわけではないので、気持ちはわかるが、私はコーラスはやりませんが、同じような施設はあるので、1万人の町で同じようなスペースを2つ持つことに対してそんなに必要なのかなと違和感を持つところである。機能や性能が違うということはわかりませんが、本来ここにあるべき機能は何なのかを考えたときに、学校というのは避難施設である必要もあると思うので、自由に使える四角い空間がいいとか、今コーラスのグループはあるけれど、20年後もあるかはわからない。汎用する整備もわかるが、しっかり考えて整備していただければと思う。

検討委員：話が戻って申し訳ないが、説明会があったからどんどん話が増えていったりしていると思うが、建て替えてほしいとの意見もあって何でも先が見通せてなくて、長沼町はどこに向かっているのかなと思う。結局、町民会館は部局によって最終判断がされると思われるが、建て替えないでこの学校に機能させるということなのか。私たちは学校づくりの話をしていて、気づいたら町民会館のことについて議論している。校舎として必要だったから、町民会館の解体の検討をしていた。コーラスとかピアノとか私たちは町民会館の建て替えのことも入って来ていたのか。学校の子どもたちがいかに元気に過ごせるかを考えてきたが、どうしたらいいのかわからなくなってきている。最終的には新しい学校に町民会館の全てを組み込むのか。

事務局：町民会館の全て機能を組み込むことを考えているわけではない。なかなかこういう時代で、新たに施設をまちとして構えることが難しい中で、町民会館が場所的な問題で無くなっていくということで、説明会などでそれに代わる機能がほしいという町民の方々の意見がすごく多かったのは事実である。りふれなどの既存の施設もあるが、それだけではという議論もあったので、サブアリーナについてはいろんな意味で有効に活用できることを今の段階でお示しした中でご検討いただきたいと思っている。例えば文化祭などもこういう機能で開催できないかということも考えているところである。町長は町民会館の代わる施設として、ひとつは開かれた学校づくりの中で考えていきたいということと、これから運用していく中で不足している機能については、十分考えていくとしている。まず、学校づくり検討委員会の中ではサブアリーナを武道館だけでいいのか、運用上、ステージを持たせた中で、学校の授業においてもステージを活用したものができないかとい

う考えもある。全て文化的な方々だけに配慮したというわけではなく多面的に多目的に使えるのではないかということでお示ししているものである。

検討委員：おっしゃることはわかる。最初から文化的な人もこの場がいればいいのかなどと思った。示すものがあれば早めには言っていただきたい。何だかちょっとずれてきている。今後の見通しとして、町がどのように進んでいっているのかわかれば、私たちもより検討しやすい。そもそも町民会館が壊される話も他から聞かれて何もわからないこともあった。もう少しこういうふうにしたいと示してほしい。

副委員長：このようなサブアリーナで学校の授業としてどんなことが考えられるか。

検討委員：小学校ではこのサイズであればドッジボールやマット運動などで活用できる。メインは中学校の剣道で使用し、その空き時間を利用するイメージだと考えている。

検討委員：中学校であれば軽運動は可能。ピアノなどもあって合唱コンクールに向けた練習もできる。小学校や中学校とも簡単な集会や発表会での活用が考えられると思う。

委員長：学校の授業としての活用も考えられるとのことであった。

事務局：よろしければこういう方向性で進めさせていただきたい。

検討委員：整備について同意する。教育施設前提で利用していただければと思う。

委員長：サブアリーナにステージを設置する方向で進めることでよろしいか。

⇒全員了承

検討委員：学校開放について、仮に運用のことも考えたときに、そこに登録した鍵かなんかで入ってくるとは思いますが、学校関係者以外の方がどれだけ入っていてという把握をしないといけない。平日に常に間仕切りするのは難しいと思う。管理する人が必要だが、その人の部屋はない。後からと言っても付かないでは困る。最低限必要なものは予め把握していく必要があり、そのあたりは前段で提案をお願いしたい。管理する人の部屋が必要である。

事務局：安全面に関わることなので持ち帰って十分検討していく。

検討委員：サブアリーナの入り口を別に南側に造れるのか。

日建設計：可能である。ほかの運用も含めて検討していく。

○議題（3）新校舎の外観等について

検討委員：ソーラーパネルは付かないのか。

事務局：太陽光パネルの更新などランニングコストと売電収入を積算したところ、設置費に見合う発電量が得られないことから設置しないこととした。外灯などについては太陽光パネルを設置するものがあるので、環境学習として活用することも含めて検討していく。

検討委員：岩見沢の学校で壁にパネルを設置しているところもある。

副委員長：壁に設置している学校に勤務した経験があるが、ほとんど発電されないところもある。

委員長：イメージはわかったが、外観に対するメリット・デメリットがあるのか。

日建設計：外観はメリット・デメリットというものではない。雁行しているところがあるので校舎の周りを周遊しやすい。

副委員長：雪庇の問題は大丈夫なのか。

日建設計：当初は上に大きめ屋根を持っていたが、1階に持ってきており、雪庇を考えての設計になっている。

検討委員：四角の方がメンテナンスも含めてランニングコスト的に安いのではないか。今だけではなくこれからのランニングコストも含めてどうなのか。

日建設計：維持管理としてはどういう材料かによるが、今の設計においては維持管理におけるデメリットは特にないと考えている。

委員長：ちなみに屋根は無落雪なのか。

日建設計：基本的には溜まっていくが、荷重は耐えることができ、雪庇ができないような立ち上がりを設けているなど、冬の害というのは極力無いようにしていきたい。

検討委員：屋上は平らになるのでしょうか。幼稚園は落ち葉の影響で水が流れなくてプールみたいになったことがあった。雪が解けた時、どのようなようになるのか教えてほしい。

日建設計：基本的にルーフトレンといって排水する箇所が複数あって、落ち葉の影響があっても、全てが埋まることは考えにくく、どこからか排水できるようにしている。ただ、落ち葉を取り除く作業は必要である。

委員長：例えば次回までに意見を集めることができるものなのか。

事務局：次回が最後なのでできれば今出させていただきたい。

委員長：この会のあとでも何か思いつくことがあれば、事務局へ連絡願います。

○議題（４）次回開催日について

※質疑・意見なし

３ その他

検討委員：あと何回、検討委員会はあるのか。

事務局：基本設計の納期は３月なので、特別なことがない限り、次の３月を最後として予定している。